

<2班>

■再編内容（鎌倉地域）



2班 コンセプト 『資産はスリムに。付加価値サービスは民活用。』

再編の考え方
 ○駅周辺の用地を、民間利用で有効活用(表駅には拠点整備, 旧警備用地も活用)
 ○寄付された文化施設は、収益施設化・学校の子育て化
 ○県・国・民間の空き施設を活用する(物にキレ所) ○図書館はネットワーク化・分散

ポイント	削減		売却	利用料金改定・民間委託		サービス向上 (鎌倉らしさ)		
	施設			サービス			カード	理由
	カード	理由		カード	理由			
1日目	中央図書館 (747平方メートル) 200	市民会館 610平方メートル	公民館 60	セリアのバスター	【料金改定】	インタビュー (協賛, ショップ) 200		
2日目	市民会館 (747平方メートル) 200	市民会館 (747平方メートル) 200	公民館 60	市民会館 (747平方メートル) 200	【民間委託】	完成まで完了 200		
合計	1,600 / 3,170	60 / 2,210	930	410	2,800 / 5,380 (鎌倉地域)	-200		

■ 2班の発表に対する質疑応答

質問：

図書館の機能を分散化させるとのことだが、この本を借りたい場合はAという所へ行く、この本を借りたい時はBという所へ行くとかそういう事があるのか。

回答：

市民に大変な労力をかけるので、それはない。できれば生涯学習センターをリニューアルし、もしくはルミネの所も良いが、駅のすぐ近くに貸出しカウンターをつくり、駅の近くですぐ貸出しや返却が出来ることを考えているため、サービスの悪化はない。

図書館の機能のもう一つの資料保管、それは集約化する。分散するとの閲覧スペースで学校とする。学校を多機能化することで、子どもだけではない年齢全部の人が集まる機能にしたい。

もう1つ補足で、分散させることで利便性が悪くなる分は、民間に委託するような方法で効率良く、利用しやすいようにする案も出ていた。

質問：

市役所がなくなるという発想に頭がーンときた。どんな市にしていくかという中心を担う場所をそんなに簡単に無くすという事は頭が真っ白になる。

回答：

むしろ、市民が主人公である。職員はそれぞれ分散してしまう訳だが、鎌倉市のシンボルとしての市役所というのは建物としては無くなるかもしれないが、それぞれの所に拠点を分散するため、市の機能は十分に維持出来ると思う。職員の人は大変かもしれないが、宜しく願いたい。

質問：

民間に業務委託、市がきちんと方針を示した上で任せる事について僕は大賛成だが、市役所の基本的な業務、図書館についても、分散すればいいという考え方にはバランスが必要だと思う。特に図書館については、例えば藤沢市の例をみるとフル装備になっている。町田などではスペースをつくって図書館を越えた情報センターとしての役割を担っている市も沢山ある。本は借りられるよとそういう事だけではいけないのではないかと思う。歴史文化交流センターの計画がたてられているが、中央図書館にある古文書や古地図、鎌倉街道の地図は、小学校に置く訳にはいかないので、専門図書館なり、専門分館なりをつくる。鎌倉の図書館は中世の鎌倉の発信基地になるのだというふうに考えたほうが20年後を目指すにはいいと思う。そのため、図書館をバラバラにするのも良いが、中央をきちんとする。それから市の業務も、核の業務はきちんとすると。高齢者の立場からいいますと、柏でも相模原でもそうだけど、一つの屋根の下に診療・看護・介護・リハビリ・緩和ケア・館外ケアの専門家があっちにも集まるという実動部隊がそれが本当の地域包括ケアなんだという考え方が段々浸透している。したがってどこか1箇所、僕は深沢の人の広報だと思いますが、そういう所へむしろ集中化すると、ノルマが分散した方が便利な面と、集中してノウハウがつくられてどんどん、自己回転していくようにするのがいいのか、それぞれよくお考えいただきたいと思う。

回答：

今のは貴重な意見で、確におっしゃる通りなので、ぜひ考えていかななくてはならないと思う。